

わかば会誌

第17号

2022.1

巻頭言

医師会は学術団体である ～河北郡市医師会との16年の歩み～

河北郡市医師会・副会長
金沢医科大学病院・副院長（診療部長）

横山 仁



新年あけましておめでとうございます。

令和2年6月より2度目の一般社団法人河北郡市医師会・副会長を務めさせていただいております。前任と言っても遥か16年も昔になります金沢大学時代には、医師会活動に携わる事がありませんでした。平成18年4月の腎臓内科への赴任以来、河北郡市医師会とのご縁は数え切れないものがあります。役職だけでも平成22年4月～平成24年3月副会長、平成24年4月～平成27年3月河北郡市医師会より推薦いただいた県医師会・副会長、平成30年5月～県医師会・代議員、今回の副会長の経験を通して、河北郡市医師会活動をつぶさに拝見出来ました。行政とも常に連携した医師会活動の多岐にわたる事を実感するとともに地域医療の最前線を支える会員の皆様に改めて頭が下がる思いです。常々、発熱や疼痛等のFirst touchでの診断治療の難しさを思うに「後医は名医」の意味を改めて噛み締めております。

さて、この間には巻頭言の表題とした紺谷一浩・元会長の「医師会は学術団体である」との力強いお言葉の下に慢性腎臓病（CKD）を介する地域連携の場として平成21年7月に「かほく腎臓病ネットワーク」を立ち上げさせていただき、歴代の会長でいらっしゃる北谷秀樹・県医師会代議員会議長、由雄裕之・前会長、沖野惣一・会長のご協力によりCOVID19パンデミック下で初めてのWeb開催と

なった令和2年9月の第14回まで、面々と医師会員や関係職員の皆様と勉強会や腎臓病食試食会等を通じて交流させていただきました。また、日本腎臓学会が日本医師会とも連携して企画し、今も追跡調査されている「FROM-J研究」では、B群としての栄養指導介入からアンケート調査までご協力いただき、わが国のCKD診療における地域連携の重要性を明らかにできた事に改めて御礼申し上げます。

さらに、大学の立場から医学生・研修医の教育・育成では、これまで会員の皆様から地域における臨床実習はじめ、多大なご援助をいただいた事に感謝しています。この令和2年～3年はCOVID19により、残念ながら実地の臨床実習を断念せざるを得ませんでしたが、感染防御を徹底し、院内における外来・病棟実習を対面で行えるまでになりました。「With～Afterコロナ」の中で診療・教育・研究における地域連携の重要性を改めて考える契機になったと思います。

金沢医科大の建学の理念は、「人間性豊かな良医を育成し、知識と技術を極めて社会に貢献する」であります。改めて地域との連携なくしてこの実行は難しく、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。また、微力ながら医師会活動にも参画して行きたいと思いますので今後とも宜しくお願い申し上げます。

金沢医科大学教授就任のご挨拶

金沢医科大学 心臓血管外科学講座教授 (講座主任)

高野 環



あけましておめでとうございます。

河北都市医師会の先生方にはいつもご高配を賜り、まずは深く御礼申し上げます。

2021年4月より心臓血管外科学講座教授(講座主任)を仰せつかっている高野 環です。私は長野県出身で、1991年に弘前大学を卒業して信州大学第二外科に入局し、心臓血管外科で臨床、研究に従事してまいりました。僧帽弁形成術、大動脈弁温存基部置換術といった患者さんの組織をできるだけ温存する手術と、人工血管感染、人工弁感染に対する再手術など、組織を大きく置換する大がかりな手術の両方を数多く行ってきました。弁形成術はご自身の悪くなってしまった弁を取り替えるのではなく、弁を直す手術です。取り替える手術に比べて、合併症の発生率が低いことがわかっており、僧帽弁閉鎖不全症ではほとんどの患者さんで形成術だけで手術を終えることができます。また、心臓や大血管の再手術は大きな危険が伴うと考えられますが、人工心肺と手術術式の工夫により、初回手術とほぼ同じ手術成績を得ることができるようになっています。

また、患者さんにできるだけ小さな負担で心臓の手術を受けて頂くことも大切だと考え、ポートアクセス法や胸骨部分切開を用いた低侵襲心臓血管外科手術(MICS)を可能な限り行っています。これは従来の心臓血管外科手術のように胸骨を全て切開することなく行う心臓血管手術で、僧帽弁閉鎖不全症、僧帽

弁狭窄症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、胸部大動脈瘤、心房中隔欠損症、心臓腫瘍などを行うことができます。手術による出血が少なく、通常のリハビリに比べて手術後早くに運動ができるようになるのが特徴です。腹部や胸部の大動脈瘤に対しては、当科が日本の他施設に先駆けて開始したカテーテルによるステント内挿術を第一選択として手術を行っており、北陸で最も多い症例数を有する施設の1つになっています。

教授就任後に開始した“心臓血管病 内灘セミナー”では、2021年には2回、当院循環器内科と一緒に都市医師会の先生方にこれらの私たちの取り組みを紹介させていただきました。先生方の御診療で私たちがお役に立てることがございましたら、いつでもご連絡いただければ幸いです。今後も何卒よろしくお願い申し上げます。



ご挨拶

うえしま整形外科・婦人科 上島 謙一



明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

2021年5月に津幡町で、「うえしま整形外科・婦人科」を開院させて頂きました上島謙一と申します。河北郡市医師会の皆様には、日ごろより大変お世話になっております。

私は、当院の前身である「上島産婦人科医院」が開院した1981年に津幡町に引っ越してきて、高校卒業までの13年を過ごしました。その後、富山医科薬科大学（現富山大学）へ進学し、2002年に金沢大学整形外科学教室へ入局させて頂きました。大学進学から関連病院をローテートしている間は、津幡町は正月など年に数回帰ってくるだけの少し疎遠な町になっていました。

2016年の転勤をきっかけに、約20年ぶりに津幡町に戻ってまいりました。その後の生活の中で、懐かしい友人に会い、懐かしい景色を眺め、わが子もこの地域に育てて頂いているうちに、少しでも地域への恩返しができればという思いがじわじわと湧いてきたことが、開業に踏み切るきっかけとなりました。

この度、多くの方々からのご支援を頂き、建物の大幅な改築を行いました。MRIを導入することにしたのですが、そこには一つ問題がありました。津幡町はそもそも地盤が軟弱らしく、当院はそのなかでも、「しょうず（清水）」という湧き水がある清水地区にあります。そのままMRIを設置すると建物自体が傾いてしまうかもしれないなどというなんとも恐ろしいことが想定されました。そのため、約13トンもあるMRIを搬入するには、ボーリング調査から必要と

なり、その結果、建物の下に30mほどの杭打ちを数本追加することでなんとか解決することができました。1階の中には重機が入り、構造的に許されるところはほとんど解体してしまいました。待合室にあったレンガ模様のアーチだけはそのままにして以前の名残を残したところ、気づいて懐かしんでくれる方がいて、驚きうれしさがありました。



1階において整形外科を中心に診療し、リハビリでは運動療法も積極的にとりいれています。失われた運動機能の回復とともに、残された能力を最大限に引き伸ばすためのお手伝いできればと思っています。2階では父が婦人科を中心に診療しています。更年期障害は骨粗鬆症や、肩こり、手指の痛みやしびれといった運動器の障害とも深くかかわりがあります。2つの診療科が連携することにより、地域の皆様にとって利便性が上がり、少しでもお役に立つことができれば幸いです。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



1981年 開院時

2021年 開院時



還暦を迎えて

あけましておめでとうございます。

つれづれなるままに、日暮らし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、

地元かほく市に開業してちょうど20年を迎えます。勤務医として10年勤めてからの開業でした。

時折子供の頃通った外日角小学校の前を通り、校庭でみんなで一緒に肉弾戦ゲームしたな！校庭の階段で女の子と海に沈む夕陽を眺めたな！とか、通学路を車で走りながら、ここにあった店で買い食いをして女子によくチクられたな！とか。河北台中学校の前を通ると、あの頃はテニスと勉強頑張ってたな！女の子に関心はあったけどなんにもできなかったな！でも楽しかったな！とか。

泉丘高校の前を通ると、あのテニスコートでテニス頑張ってたな！受験勉強のために女子との付き合いは厳禁だな！勉強頑張ろう！て、でも浪人したな！とか。大学生になってからはそれまでの反動で男女交際とテニスに明け暮れたな！とか。

医師になってからは自分で言うのは恥ずかしいですが臨床と研究をかなり頑張ったな！と。

きた眼科クリニック 北 勝利



開業して20年、友人、先輩そして家族に支えられながら頑張ってきたな！本当に心から感謝です！

80歳まで開業医として頑張ると、開業医人生、なんと40年！開業するまでに歩んできた人生と同じ時間になるんだな！開業医として第二の人生を歩みだすときには自分自身で何段かのステージを設定してその目標に向かって一日一日頑張れば良いな！

自分の子供たちを目の前にして、こんな事を思いながら時には笑い時には厳しく言い時には褒めて、素敵な人生を歩んで欲しいと願っています。開業医としてステージをあと2段設定して一日一日頑張っていくぞ！と。

でもなー、時の流れに身をまかせても良いかなー！と。

あやしくこそものぐるほしけれ。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



還暦に盆栽

新年、明けましておめでとうございます。

還暦を迎えるにあたってという原稿依頼を頂きましたが、還暦だからといって特別に思うことはなく、毎年、毎年の年末に思うことと変わりありません。毎年、毎年の年末に思うことは、今年も何人も人間としての成長なく過ごしてきたなという反省です。

父は良きにつけ悪きにつけ大変記憶に残る人でした。それに対して自分は子孫に誇る様なものは何もないという焦りの様なものもあります。この様な反省のもと、新年からは毎日日記をつけることを目標にして毎年革張りの立派な日記帳を買うのですが、長続きせず日記帳だけが本棚に並ん

久保医院 久保 隆之



でいます。

最近、若い頃は年寄りの趣味と言って馬鹿にしていた盆栽に興味を持つようになりました。今や盆栽は『BONSAI』として海外の若者にも趣味として人気があり、小さな鉢に大木の風景、四季を表現するという完成することのない芸術として高く評価されています。代々受け継がれ樹齢800年の盆栽や一億円を超える値段で取引される盆栽もあります。これから体力が低下してスポーツはできなくても盆栽ぐらいならできそう、老いていく自分とは逆に盆栽が育つことは老後の楽しみになりそう、うまく育てられれば品評会で賞を取れ



還暦を迎えて

石川県立こころの病院 院長 北村 立



この春で高松勤務が30年になるので、人生の半分をこの地で過ごしたことになります。昨年11月、長年の懸案であった病院名も「石川県立こころの病院」に改めることができましたし、来年に外来棟が完成すれば、院長としての仕事も一区切りつきます。しかし定年まではまだ時間があるので、もう一仕事できそう。子供のこころの問題、ギャンブル依存やゲーム依存などの行動嗜癖、引きこもりや8050問題、高齢者の孤独や孤立の問題など取り組むべき課題は山積しています。やっぱり、アル中ハイマー病を発症するまで働かされるのでしょうか。

受験の成り行きで医学部に入り、講義に出ないで野球と麻雀に明け暮れる、志の低い医学生でした。テストさえ受ければなんとかなるだろうと気楽に構え、将来のことなど何も考えていませんでしたが、大学4年生時のNHK市民大学講座で精神科に興味を持ちました。担当していたのが宮本忠雄精神科教授であり、その後彼の書いた「精神分裂病の世界」や、加賀乙彦の「死刑囚の記録」や「宣告」を読んで、「精神科でもやろうか」と考えるようになりました。県中の研修医になり、医師の仕事も楽しくなりましたが、まださぼり癖は抜け

ず、ある先生に「そんなので将来どうするつもりだ」と叱られたとき、「精神科を・・・」と答えると「それならいい」とすぐに許してくれたことをきっかけに、怒られたら「精神科」と答えることを覚えました。2年目の途中で舩倉島へ派遣され、その後3年間穴水の診療所で働いたときは、一端の青年医師気取りでしたが、当時は心療内科に進もうかと考えていました。しかしある先生から「そんな半端なものではだめや。内科か精神科かはっきりしなさい」と言われ、高松病院入団を決意しました。今となっては正解ですが、高松に来た当時は「9時半まで外来をするな」とか「看護師長の許可した時間しか病棟に入ってはいけない」など、精神病院独特の雰囲気カルチャーショックをうけ、精神保健指定医の資格をとったら逃げようと考えていたことを思い出します。地域医療の経験から認知症医療が見事にはまりましたが、時代の要請もあったと思います。振り返ると、自分は運のいい男で多くの人にも恵まれました。その運を逃さぬため、週末の競馬は外れることになっているのだろうと納得しています。

るかも、自分が育てた盆栽が何代にもわたって子孫に受け継がれれば最高などと空想していました。そんな折、昨年の初夏に青空ハウスで仕事を終えた帰りに東急ハンズに立ち寄ったところ、数種類のミニ盆栽セット(マグカップ程度の鉢+土+種)が目にとまり、これだと思い3セット買って帰りました。各セットに8粒ほどの種がありセットして育てたのですが、芽がでたのはたった1本の黒松でした。この1本を大切に育てていたのですが成長が悪く、土がダメなのかと思い植え換えたところ数日で枯れて『枯れ盆栽』になってしまいました。(枯れ盆栽、ドライ盆栽というジャンルもあります) 自分の人生のようで不吉なものを感じてしまいました。

あえて還暦の抱負とするなら、昨年失敗した盆栽の栽培を成功させたいことでしょうか。後に

なって勉強したのですが、種から育てる盆栽は難易度が高い、品種によっても難易度が違う、ある程度育ったものを購入して自分好みに育てていく選択、想像以上に小まめな手入れが必要等、自分にできるかといえば不安ですが自分を変えるためにもこのチャレンジを成功させたいと思います。そして盆栽の成長を日々の日記に書いていこうと思っています。



1. 理事会・総会

令和3年 7月21日(水) 第4回理事会
 令和3年 8月18日(水) 第5回理事会
 令和3年 9月15日(水) 第6回理事会
 令和3年10月 6日(月) 石川県医師会との懇談会

令和3年10月20日(水) 第7回理事会
 令和3年11月17日(水) 第8回理事会
 令和3年12月22日(水) 第9回理事会

2. 学術研修会

河北都市医師会学術講習会

令和3年7月14日(水)
 演題：「COVID-19時代の心房細動治療のあり方を考える」
 講師：独立行政法人国立病院機構
 金沢医療センター 副院長
 阪上 学 先生

令和3年7月28日(水)
 演題：「検査値から診る血液疾患～血球増加から何を疑うか～」
 講師：金沢医科大学病院 血液内科 教授
 福島 俊洋 先生

令和3年8月4日(水)
 演題：「血管から考えるアンチエイジング～亜鉛の可能性も含めて～」
 講師：金沢医科大学 総合内科 准教授
 集学的医療部女性総合医療センター
 センター長 赤澤 純代 先生

令和3年8月5日(木)
 演題：「失神と立ちくらみ」
 講師：金沢医科大学 脳神経内科 教授
 朝比奈 正人 先生

令和3年9月8日(水)
 演題：「知っておきたい乾癬性関節炎にみられる爪病変」
 講師：金沢医科大学 皮膚科学 准教授
 竹田 公信 先生

令和3年9月17日(金)
 演題：「片頭痛診療の新たな治療戦略～エムガルトが巻き起こすパラダイムシフト～」
 講師：さくら内科・脳神経クリニック 院長
 松田 博 先生

令和3年10月13日(水)
 演題①：「最新の心不全治療アルゴリズム」
 講師：金沢医科大学 循環器内科学 特任教授
 河合 康幸 先生
 演題②：「弁膜症手術について」
 講師：金沢医科大学 心臓血管外科
 講座主任教授 高野 環 先生

令和3年10月28日(水)
 演題：「関節リウマチとその類縁疾患～診断のポイントと治療について～」
 講師：金沢医科大学 血液免疫内科学 准教授
 山田 和徳 先生

令和3年11月10日(水)
 演題：「これからの時代を先読みする上部消化管診療～何が変わりつつあるか～」
 講師：自治医科大学 消化器内科学部門 教授
 大澤 博之 先生

令和3年11月26日(金)
 演題①：「当院でのFabry病症例の経験と透析患者におけるスクリーニング」
 講師：金沢医科大学 腎臓内科学
 矢部 友久 先生
 演題②：「日常診療で遭遇するファブリー病を見逃さない！～北海道における透析患者におけるスクリーニング」
 講師：旭川医科大学 内科学講座
 循環・呼吸・神経 病態内科学分野
 准教授 中川 直樹 先生



編集後記

多忙な日々の中、17号にご寄稿戴いた先生方に厚く御礼申し上げます。この17号の原稿をご寄稿戴いた11月下旬は新型コロナウイルス感染も劇的に改善してきた頃です。ワクチン追加接種も予定され始め、更には小児へのワクチン接種も議論されています。その最中に、新たな変異株オミクロン株への脅威も指摘されており、本会誌が発行される頃にはもっと改善している事を祈るばかりです。

会誌編集委員

石倉 直敬
 久保 隆之
 木嶋 保
 藤井 亮太
 藤田 拓也
 佐藤 宏和